

人生は、運よりも実力よりも 「勘違いさせる力」で決まってい る

単行本：365 ページ
出版：ダイヤモンド社
価格：1,500 円（税抜）

はじめに

これは実力社会の欺瞞を暴く本である。本書冒頭の一文にて、筆者はこう語っています。



「なんであの人が出世するんだろう」「どうして私は冷遇されるんだろう」というような出来事は決して時の運のみによるものではないのです。実力以上に重要な錯覚力とはいったいどのようなものなのでしょうか。

錯覚資産

たとえば「見た目が良い人」と「見た目が普通の人」で考えてみましょう。それぞれの価値観や好みによるイメージで構いません。頭の中に浮かんだ2人の外見の差に伴って、その人の性格やビジネススタイルまで想像してしまうことがあるのではないのでしょうか。

外見をみただけではそれ以外の要素の優劣を正しく判断することはできないはずなのに、私たちは想像・予想せずにはいられません。「見た目の良い人の方がなんとなく信頼できるし、なんとなく仕事ができそうな気がする」というように、外見の差が性格や仕事に関する評価の差にも表れているのです。

「そんなの当たり前だ」と思うかもしれませんが、これこそまさに錯覚なのです。そして多くの人はこのような錯覚を錯覚だと認識することができません。こうした「自分の得になるような、他人の勘違い」のことを錯覚資産と呼びます。

ハロー効果

さきほどの「なんとなく信頼できるし、なんとなく仕事ができそう」という錯覚にはハロー効果という名称がつけられています。このハロー効果は良い面ばかりに作用

するわけではありません。

「マイナスのハロー効果」によって直観を汚染されている

このような現象によって「ダメなやつは何をやってもダメ」と思わせてしまう事態が起こってしまうと筆者は考えています。数回の失敗に注目しすぎてマイナスのハロー効果にとらわれないよう、適宜切り替えられる思考の柔軟性を備えておきたいところです。こちらも「錯覚と認識できない錯覚」ですね。

思考の粘り強さ

判断が難しいとき、人間は考えるのを放棄して、直感に従ってしまう

筆者のこの言葉も、共感できる方が多いのではないのでしょうか。この後には以下のように続いています。

判断が難しいときに直感が出す答えは、思考の錯覚に汚染されていることが多い

他人の錯覚資産やハロー効果によって、軽率な選択をとってしまうことだけは回避すべきでしょう。そのためには判断が難しい困難な状況でこそ、じっくり考え抜くことが不可欠ということなのです。

錯覚や勘違いといったものは、どれだけ意識してもその場ではなかなか気付くことができないものです。日常に蔓延している「当たり前」を疑うことから意識の改革を始めてみてはいかがでしょうか。その第一歩の頼もしいパートナーとしておすすめの1冊です。